

銚子ジオパーク市民の会 ニュース



特集

屏風ヶ浦 (銚子市)

第135号

2025年08月28日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshigeopark.com>



きのこ探検隊!

安藤 清

夏休みが始まった7月19日、自由研究ツアーの先頭を切って「キノコ探検隊」が行われました。

参加者は10組の家族で計21名。講師は慶應義塾大学准教授の糟谷大河先生です。

また先生のもとで学ぶ大学院生と学生の2名が助手として参加され、市民の会からは宮内敏、白土、石毛美子の各氏と安藤が参加しました。

午前9時半から挨拶や概要説明があり、10時頃から猿田神社元宮の社周辺に移動してきのこ探しが始まりました。市民の会メンバーの役割は、参加者の動きを見守ることのほか、きのこ採集の手伝いをするということです。

見慣れた形のきのこもあれば、目を凝らさないとわからないほど小さなきのこや、「これもきのこなんだ!」というようなきのこまで、参加者は森の中を歩き回りながら1時

間あまりの探検を楽しみました。糟谷先生が鬱蒼とした森の中で、きのこをめぐって動植物がつながる生態系についてわかりやすく解説されていたことが印象に残っています。



糟谷先生から説明を受ける参加者達

午後は、ジオパーク・芸術センターに移動して、「キノコ探検隊——銚子のきのここと森のヒミツ——」の講演を聴いた後、標本作製作業を行いました。参加者とともに、きのこのおもしろさにふれた一日でした。

貝殻標本を作ろう

竹内 明江

7月21日(日・祝)長崎防災空地に10組20名の親子が集合! 朝から日差しが強か

ったが、涼しい海風がちよつとそれを和らげてくれたように思う。

房州勝也氏を講師に迎えてワクワクする一日が始まった。集合場所で注意事項を聞き、みんなは海岸に向かった。参加者は暑さも忘れて貝をバケツいっぱい集めた。バケツの中に個性を感じる。

午後からは銚子ジオパーク・芸術センター実験室で勝也氏から貝の食事、呼び名などを学習した。一般人でもとても分かり易く「もつと知りたい」気持ちを掻き立てるものだった。

房州文子サポーターのツメタ貝が二枚貝をどう捕食するかや、砂茶というツメタガイの卵魂の話が印象的だった。たくさんさんの貝の標本の見本で、めずらしい貝を見たのちに、標本作りに突入。

自分たちが集めてきた貝を資料と見比べ、よく観察し、質問するときは「これは〇〇貝だ」と思いますがあっていますか?と勝也氏に!!! 目を輝かせた子供達は彼の周りを取

り囲んだ。貝の調べ方も覚え、標本作り方も学び、あつという間に時間が過ぎた。標本の完成は自宅となるがお手伝い見学をさせていただいた私は完成品を是非見てみたい。

この一日の学びが参加者・そしてジオパークの宝となると思われる。

子供達の作品が多くの方々の目に触れて、私達も来年も参加したいと思っていた。自由研究ツアーになったのではないかと思った。この一日に関わらせていただき感謝している。

風と風車の秘密を探ろう

井川 浩良

7月24日(木)講師は地域おこし協力隊小宮一恭氏、学芸員の上田氏、岩本氏、サポーターは市民の会の越川氏、石嶋氏、井川。親子11組23名が参加。10時から銚子市ジオパーク・芸術センター実験室で実施した。講義はテーマである「風って何?」から興味を持つてもらい、

実際に風を利用した風車を、持参したペットボトルで羽根を作製し発電機とLEDを繋ぎ、風の力で光らせる工作を開始。作成した風車を送風機に向け正面、左右30度の角度を変えて風力を測定し、風車の仕組みを肌で感じた。各自「羽根の枚数」「角度」「表面の形状」を工夫し時間一杯楽しんで風車を完成させた。



講義と風車製作風景

午後14時、銚子地方気象台。親子10組(20名)が参加。「銚子の気象の特徴」等を学び、気象台の仕事の見学を通じて気象予報の仕組みを実際の観測器と体験と説明を聞くことで、日々の仕事の状況を更